

第24回神奈川県美術展



第24回神奈川県美術展

●
1期展／日本画・洋画・版画・彫刻・立体造形

昭和63年10月5日(水)→10月16日(日)

●
2期展／工芸・書・写真

昭和63年10月19日(水)→10月30日(日)

●
会場／神奈川県立県民ホールギャラリー

●
主催／神奈川県美術展委員会・神奈川県

●
入賞作品巡回展

昭和63年11月11日(金)→11月16日(水)

会場／厚木市市民ギャラリー

主催／厚木市・神奈川県美術展委員会・神奈川県

日本画

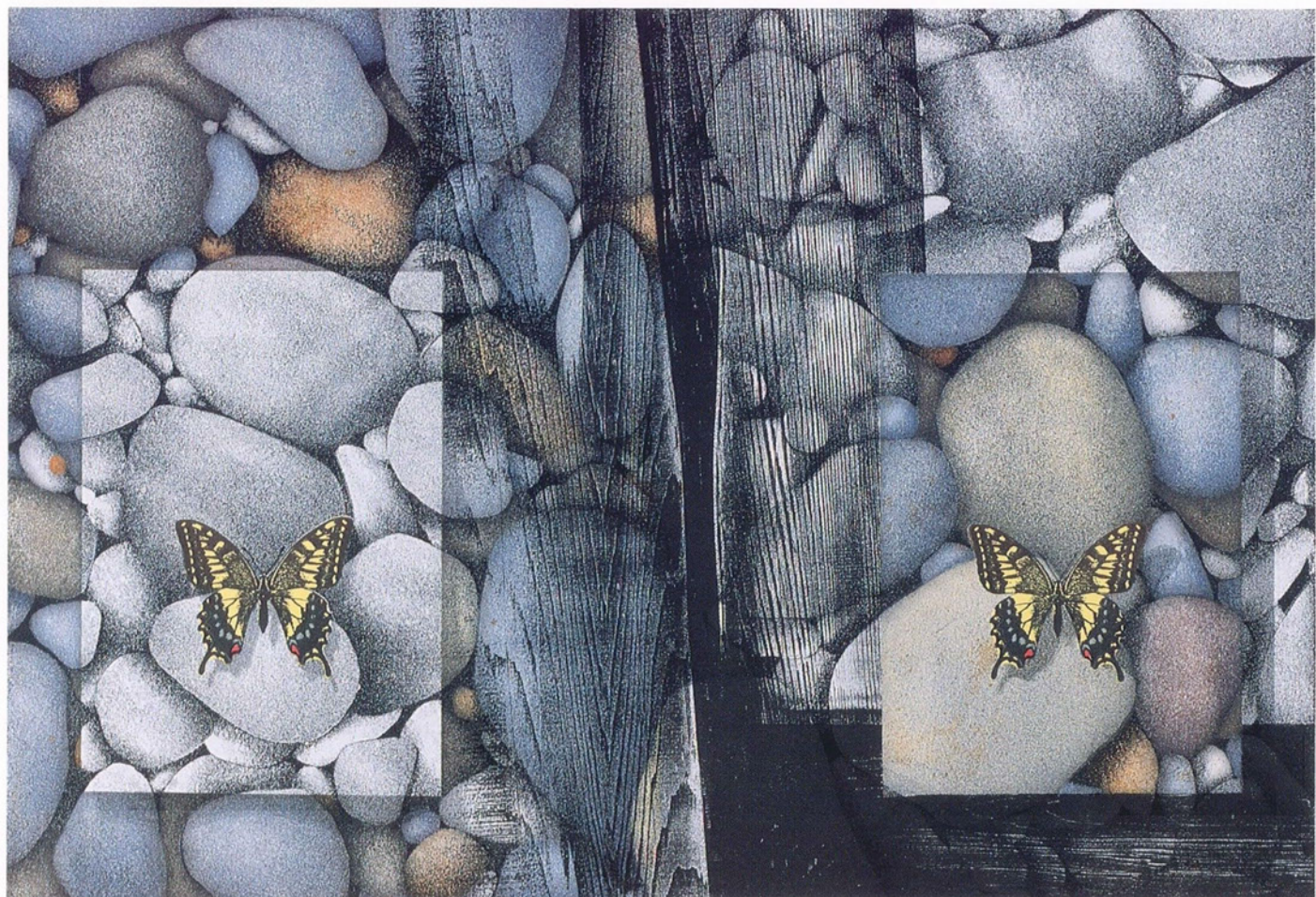
洋画

版画

彫刻

立体造形

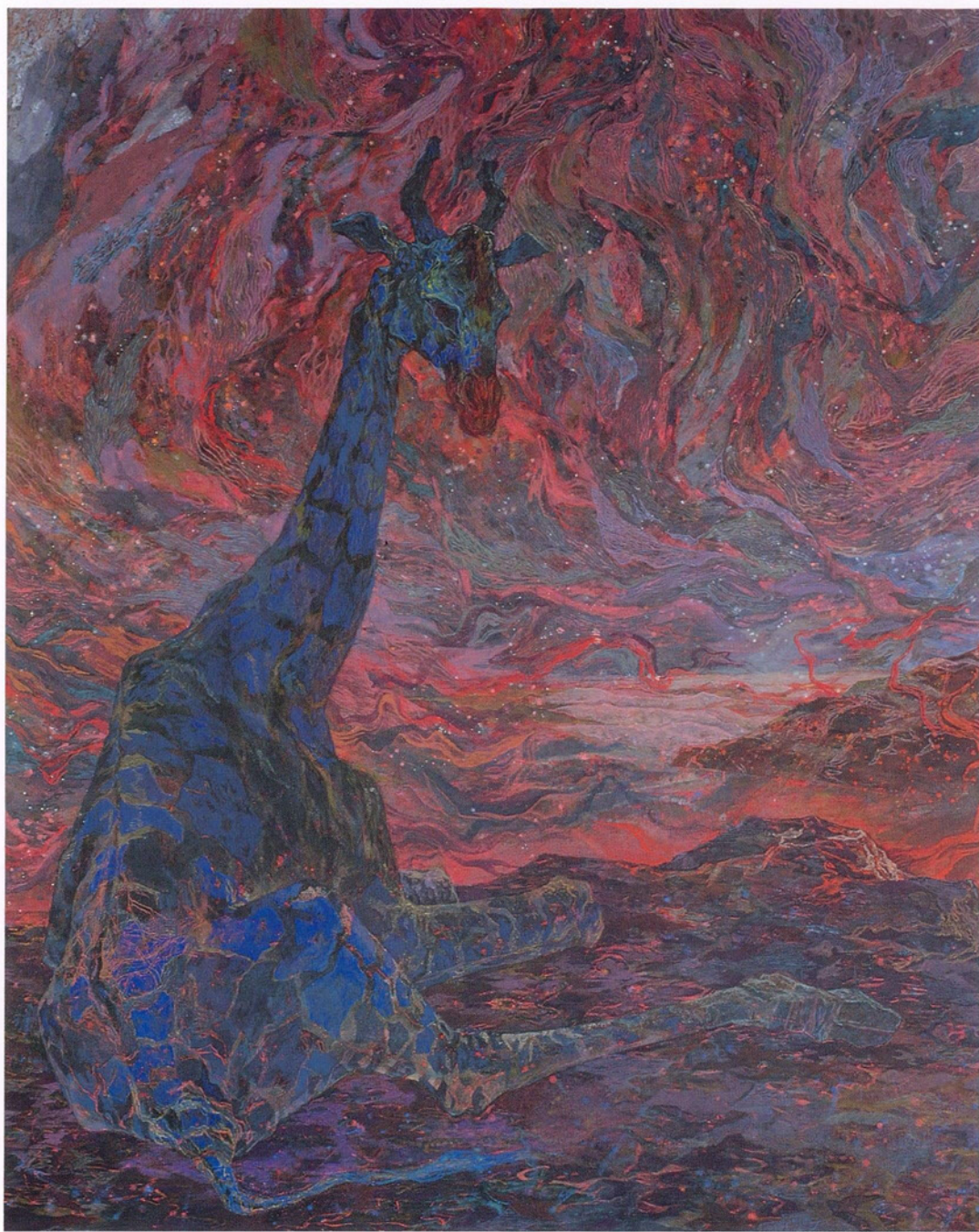




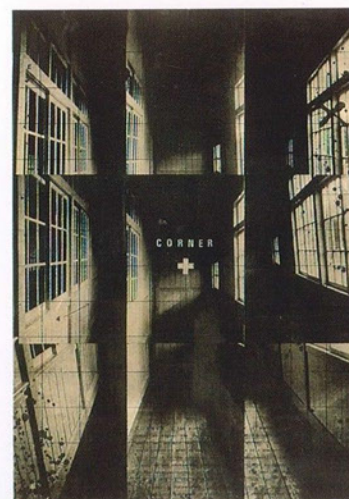
大賞 ■ 三枝孝司 複製された場所 (版画)



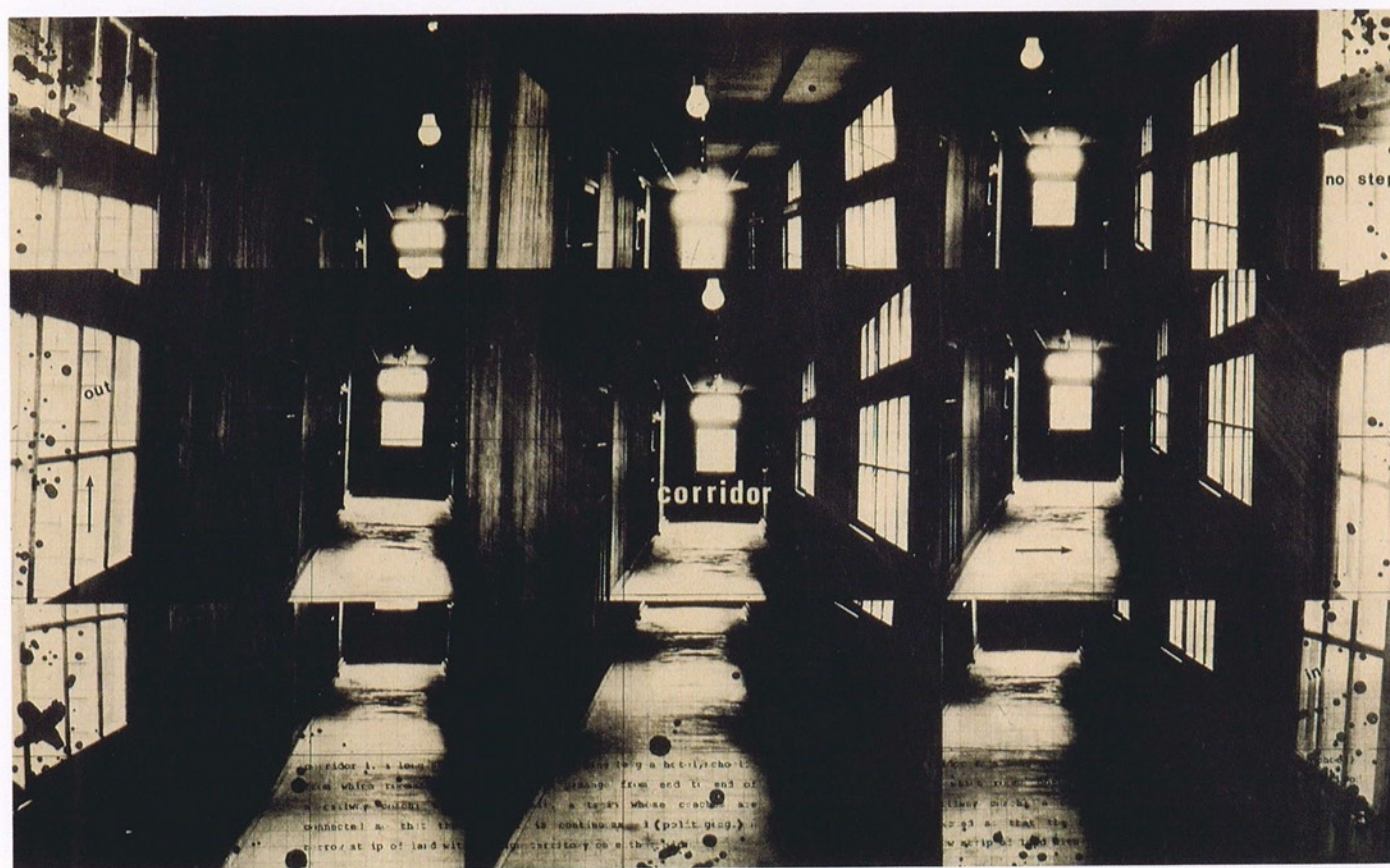
記憶



準大賞 ■ 山崎 宏 焔の底 (日本画)



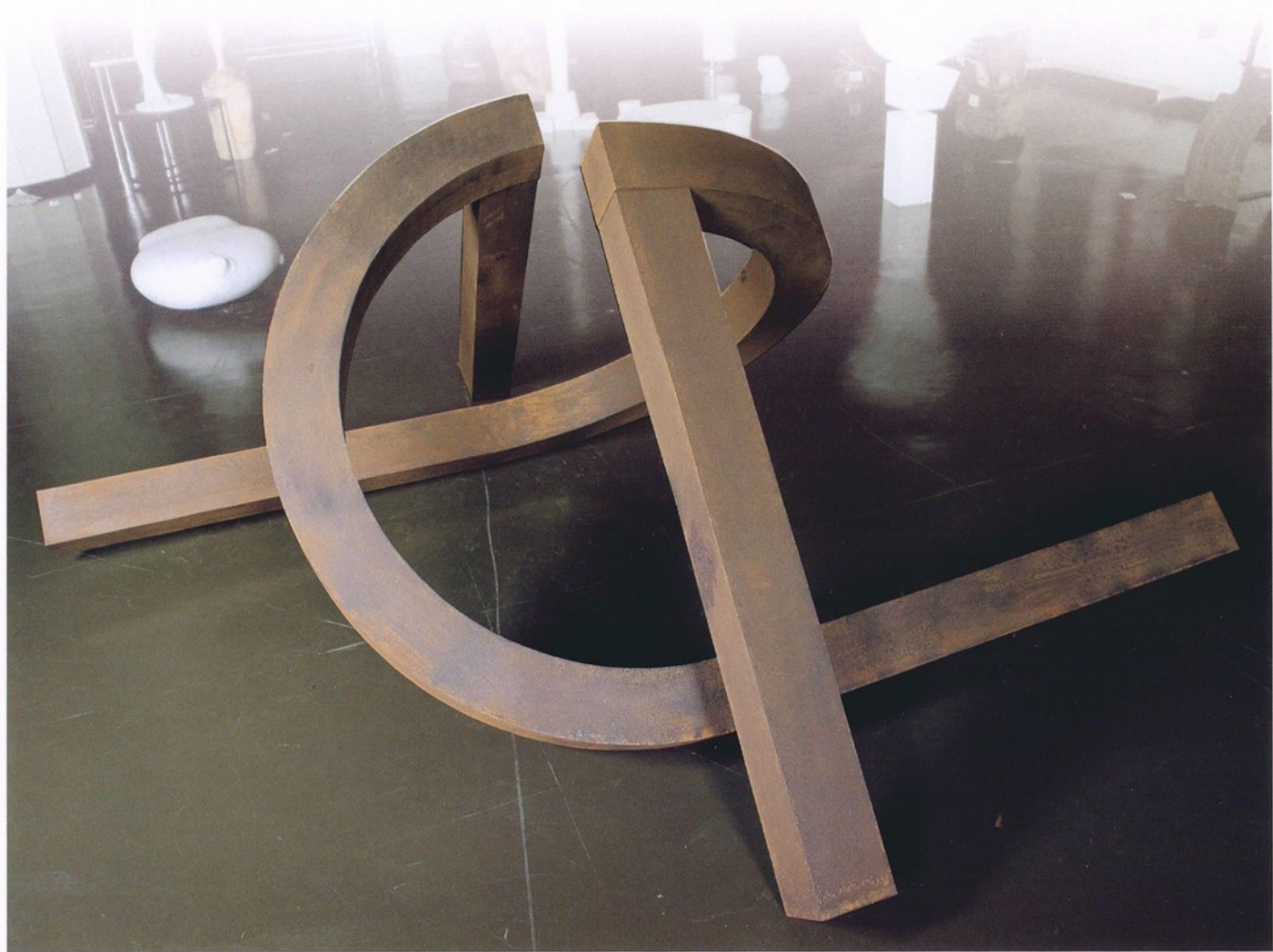
Corner



特選 ■ 藤田 修 Corridor (版画)



特選 ■ 土井宏二 語部 (彫刻)



特選 ■ 栢沼州良 潮風 (立体造形)



県立近代美術館賞 ■ 中村智恵美 思い出 (洋画)



美術奨学会賞 ■ 小玉文夫 宙 (日本画)



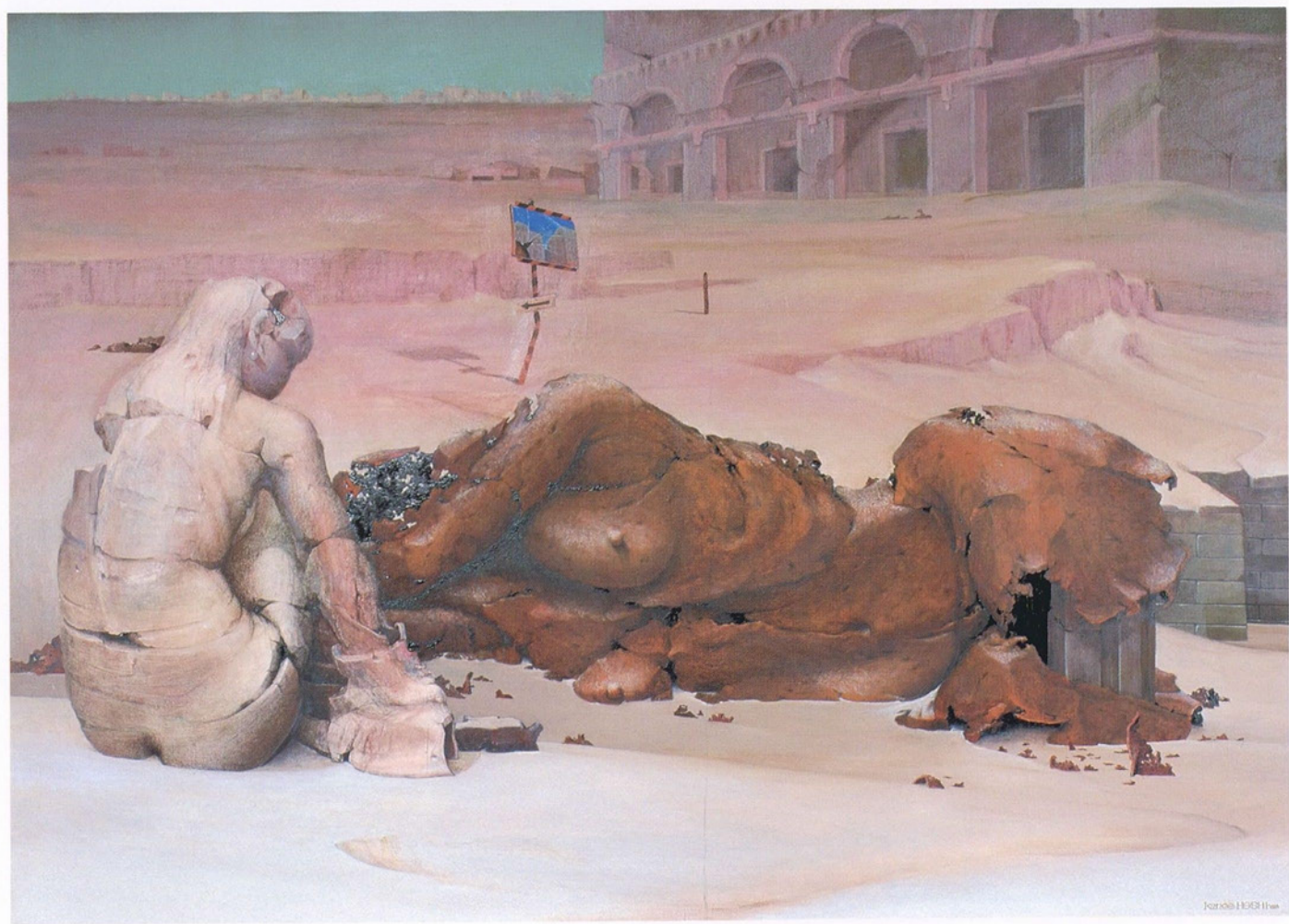
美術奨学会賞 ■ 出口佳子 母なる大地No.2 (洋画)



美術奨学会賞 ■ 辻 忍 黒い海老・黒い人 (彫刻)



美術奨学会賞 ■ 梅田勝裕 漂 (彫刻)



特別奨励賞 ■ 星 兼雄 変容Ⅰ(蝕) (洋画)



特別奨励賞 ■ 佐藤 淳 夜道 (洋画)



特別奨励賞 ■ 奥野ゆか BAKU (彫刻)



特別奨励賞 ■ 森島郷子 ∞ No.3 (立体造形)



特別奨励賞 ■ 津田竜之介 SEIREI (立体造形)

受賞作品目録 〈日本画・洋画・版画・彫刻・立体造形部門〉

大 賞

三 枝 孝 司 複製された場所〈版画〉

準大賞

山 崎 宏 玆の底〈日本画〉

特 選

藤 田 修 Corridor〈版画〉

土 井 宏 二 語部〈彫刻〉

栢 沼 州 良 潮風〈立体造形〉

県立近代美術館賞

中村智恵美 思い出〈洋画〉

美術奨学会賞

小 玉 文 夫 宙〈日本画〉

出 口 佳 子 母なる大地No.2〈彫刻〉

辻 忍 黒い海老・黒い人〈彫刻〉

梅 田 勝 裕 漂〈彫刻〉

特別奨励賞

星 兼 雄 変容一(蝕)〈洋画〉

佐 藤 淳 夜道〈洋画〉

奥 野 ゆ か BAKU〈彫刻〉

森 島 郷 子 XOX No.3〈立体造形〉

津田竜之介 SEIREI〈立体造形〉

入選作品目録

日本画

野崎丑之介 末裔一(水軍)
 高沢かおり 芝
 品川成明 景・静穏
 瀧本佳子 11月のテーブル
 亀谷勇美子 私の時
 佐藤馨子 思
 松崎達夫 ゆめうつつ
 山崎洋子 聴く
 佐脇満希子 秋の木
 鈴木國男 ROOM "J." への階段
 香川亮 獣の森
 樋口薫 変化
 浅見貴子 一現在一
 匂坂均 ある夜
 矢口文 水辺／六月
 鶴田耕治 時の部屋
 永本恵子 室内
 岡崎孝彦 92U
 牧野一泉 ゆるいとき
 榊原菜穂子 森
 末永敏明 再生の原型
 村田林蔵 秋耕
 内山徹 創世(時の起源)
 小野友三 倒錯の森
 渡辺佐久子 空へ行く
 菱田章子 時を超えて

洋画

田中勇 綾しい都 一木一
 斉藤由美 星霜 うつろふ
 松沢五男 慟哭 II
 原秀一 社会科見学
 松井広志 開発 B
 黒川洋 Note-10 (ミズノハナシ)
 能勢美保子 生々(せいせい)
 千葉彰一 昼の廃船
 大久保宏美 LANDSCAPE
 横山将二 1988-7
 龍池敦美 リズム I
 岡嶋晶子 断層的イリュージョン '88-3
 水谷香織 石膏とサクソフーン II
 大橋幹 壁“遠い夜明け”
 上新知彰 みはるかす (I)
 藤村弘子 RUIN (I)
 三塩壽子 希望 (B)
 和田彰 White Counterpoint 88-1
 公文淳子 辞書の森
 佐藤嘉夫 鋼管 (B)
 田中善隆 JUMP (IV)
 松浦昌明 SPACE IN JAPAN (II)
 小山よしえ 今、私は 3
 戸村孝子 據(よりどころ)
 永島康功 マンタがやって来た
 吉田誠子 戻換 I
 丸山洋子 初夏 II
 男谷省吾 ボートのある風景

須永祥雍 43
青木道夫 忘れられていく時の為に
郷原慎一 空へⅡ
内田尚子 生命の内部で (I)
大木薫 インドの詩・I
林公裕 露地にて Prologue
大久保俊夫 吊り下げられた拡声器
本多恵理 BLACK WAVE
平田英子 寂
古道健治 ヌード B
根本宏美 象
佐々木美直子 幻想華園Ⅲ
西川美智子 潜むⅡ
桜井陽子 ONE SPACE -I
仲圭子 白い風吹く日のをんな I
臼井恵之輔 FU 63-5
田中貴 迷宮 A
石井誠 within-2
宮崎郁子 余韻 (Reverberations)
加藤恭夫 黒の卓上
古怒田喜久枝 猫のいる風景 (B)
長岡一豊 頭のない人形と木馬と……
豊口和彦 遊び場の風景Ⅲ
菱刈俊作 島の形を知るために
谷川悦子 空白の刻
渡部安弘 風景 A
根本雅行 物語 I
吉野敦子 フュージョン A

片岡世喜 落
中山智介 神の国へ
高山博行 飽食讃歌「舌」
今川保充 風景
山口幸恵 ILLUSION I
星崎千恵子 赤い瓶のある風景
牧島通之助 河童の館
角田たけ子 '88.6 孤
平田清隆 作品 (Ⅱ)
仲野泰生 時のうつろい I
岩瀬哲夫 結ばれる関係 B

版 画

宮本昌恵 無頓着な欲望
長沢康子 化石化する夢
鈴木道子 THE LIGHT (HANDS)
藤田修 Corner
村岡千秋 チャイナ・シンドローム (B)
梶山文伸 樹一(1)
遅澤恵美子 Qのいるところ
とくだあきら Moving Landscape-X
馬渡響子 集合体a
藤原百合谷 月と星のシンフォニア
大槻博 仄-soku
大庭明子 Jの幸せな少年時代
吉田茂規 青の軌跡
石綿薫 それでも草は生える
宮野美和 舞い
伊藤允雅 CAN・CAN-70
染谷ひさお 湘南 BEACH I
工藤忠孝 町 I
西川洋一郎 mirage '8826
小林守 迷路人間
おかもとひろこ クリムソンの卓
寺田有恒 夜のバラ園
利渉重雄 囚われた光
中山岳美 宵の銀座2
小清水量造 Relation '88-AZ
せきまさはる マジカル・アイランド
せきまさはる やさしい雨
小山榮 sign 一宵一

小山榮 sign 一宵Ⅱ一
安原典子 向こう側の場面 IV
角田元美 MADE IN JAPAN
山本桂右 A CARVEDSTONE No.4
山本早苗 星降る夜に V-JUNE
隈部滋子 A Night Sovereign, Luna 一夜の葬列
八木なぎさ 手を上げる山
菅原千恵子 博物館 (Ⅱ)
三枝孝司 記憶
藤浪理恵子 アベニュー

彫 刻

福田 義一 精 (せい)
小田切秀樹 境 界
増田 博亮 野にありて
松 儀 猛 隆 起 II
五十嵐延宜 陽にのび
植 木 孝二 O・N・NA '88. No.1
高野 保 緒 イラク兵士とイラン看護婦
遠 藤 信也 きりん
小澤 史雄 トルソ Wemen (座る)
辻 忍 手
川口シノブ 午睡のあと
坂 田 二 朗 熱きまなざし
三 木 勝 大寒小寒
男 谷 浩一 Xの肖像
田 代 直 子 海
武 田 由 宇 自由な束縛
長 江 真 弥 日留子
高 井 正 二 地 久
阿 部 佳 明 人体デッサン
神 山 茂 樹 カオリ
村 田 良 樹 やせたひと (女)
古 屋 隆 夫 猫-across the wall
土 井 宏 二 内にひそむもの
高 橋 忠 久里浜の女

立体造形

大北利根子 ほかの力
陰 里 寿 朗 博物記 ーなつかしい景色・心のそして最期の風景ー
穴 戸 泉 無 題
鈴 木 朝 湖 リック ディアス
倉 橋 元 治 縄文頌 (修羅)
久 松 共 子 アリスのキュービック
金 井 良 子 だっ さい 瀬 祭
線 幸 子 1988一層X II 原発社会への鎮魂
高 橋 幸 子 WAVE MONSTER
飯 室 哲 也 線状の空間感覚 ーヨドミの音色ー
石 井 節 子 TWONESS-B
伊 賀 熊 倉 そこに在るもの Put It On.
山 口 俊 朗 銜 え (KUWAE)
岡 本 禎 子 色あせた偏差値-42
結 城 勉 P-J.7 ー風光ー
田中太賀志 風と月

日本画

今年の日本画の搬入総数67点、入選28点、昨年度74点より7点程減少して居るが実質的には本年はなかなか力作が多くあった。小品でどうにもならないような趣味的なものは非常に少なくなつて居たし、従つて、質的には向上を感じた。年令的には20、30代が主流でいつもの通り若々しい県展の画風の新鮮さをそのまゝ物語っていたようだ。しかし年輩者の入選が年々少なくなつて行くのはさみしい。40、50代の活躍を望みたいのだが……。

さて今年の受賞候補は夫々特色のある作風のバラエティある推選となつたが4名のうち2名だけが受賞したわけである。準大賞となつた山崎宏氏、「茲(くろ)の底」は深味のある努力作で、まだ大学に通う22歳の青年の由、題名からも暗示されるように動物の死の迫り来る壮厳なものを表現したかったそうで、背景の空も少しにごつているのも、かえつて主題を生かしているようだ。美術奨学会賞の小玉文夫氏「宙」は、抽象的だが昨年に続くものだそうで、膠質な沈んだ画面、宇宙の広大さをいろいろと自由に工夫した筆跡もうかがえた。受賞の前者、後者共に画のテーマをしぼつての表現に努力しているようだ。昨年度の受賞者、高沢かおり氏も大胆な風景画で「芝」を、村田林蔵氏「秋耕」の作も素質によいものを感じさせたが惜しかったと思う。そのほかでは時代風刺的な、原子工場らしいものと潜水艦などを素直に構成した岡崎孝彦氏、童話風に時代を描いた鶴田耕治氏等は新しい日本画の一主題を試みて居り、菱田章子氏の所禱の海、一昨年受賞の香川亮氏の動物の群像もよかった、それらははっきりとした発言のものは安心して眺められるが、中には何をどう表現したいか不明、何が描きたいのか判明しないものには、形や色彩の調和の美しさをも見失ひ勝ちなのであつた。一つの個性の、又、理念の投影、もっと思い切つた表現の冒険を明年に期待したいと思う。

近藤 弘明

- 搬入点数 67点 (57人)
- 入選点数 28点 (28人)

洋画

応募点数は昨年とほぼ同数であったが、全体を通して感動を覚える作品は少なかったように思う。この傾向はこのところ続いていて第21回展の大賞鶴見厚子以来残念ながら洋画部門に大きな賞がなく淋しい。一昨年から世代交替のきざしがあらわれ希望が見えはじめたが、その成果は未だのようである。しかし若い層の出品者はたしかに多くなってきたのだし、はつらつとした若々しい作家の輩出が望まれる。

入選は71点（71名）で、その内受賞者は4名である。県立近代美術館賞の中村智恵美は県展入選2回目の新人である。「思い出」は県展としては最近になく目新らしさを感じた作品であり、しっかりした表現力による訴求力の強さがある。出品された大作3点はいずれ劣らぬものであったが1点にしぼったことをつけ加えておこう。特別奨励賞の星兼雄は受賞歴も多く県展の有力な常連である。腐蝕された彫像を主題として展開する詩的空間は彼独自のものである。すでに一つの様式を確立しているが、最近若干の変化を見せ「変容－（蝕）」にもうかがわれるが、新たな試みへの気配が感じられる。一層の飛躍を願いたい。同賞佐藤淳の「夜道」は野仏の素朴さを思わせ、土俗的で人間的な魅力が或る種の新鮮さとなって注目された。造形的にはやや偶発的なきらいがないでもないが、20才台の若さである将来を大いに期待したいものだ。美術奨学会賞出口佳子は県展9回入選の出品歴である。その繊細な感性による造形はさわやかである。これまでも出品作はよく審査の目を惹いたが、今回の「母なる大地No.2」は初めての受賞である。

なお、応募作品について今回特に目についた傾向について触れておこう。それは小品が出品総数の5分の1ほどを占めていたことである。もちろん作品のよしあしはその大小によって決まるものでないし、応募規定に反しているわけではない。近づいて見ればいかにも楽しく描いた思いの伝わる捨てがたいものもあったが、コンクールの性格上大作と比べいかにも弱くほとんど選にもれた。出品する方、出品をすすめる方々にも考えていただきたいことである。このままではこの傾向の進むことも予測され、今後考えなければならない一つの課題であろう。

國領 経郎

- 搬入点数 363点（202人）
- 入選点数 71点（71人）

版画

今年の版画部門は、昨年よりやや増えて、57人128点の応募があった。

数回の審査の結果、はじめは賞候補4人4点と言うことであったがさらに厳選し、今回は2人4点としぼってこれを含む36人40点の入選が決った。

最後まで審査員の気持をつかんでなさなかったのは、藤田修の写真製版銅版画の「Corner」と「Corridor」三枝孝司のスチレンボードと木版の組合せ（本人談）で制作した「記憶」と「複製された場所」の2人であった。両者共、技法と感性がみごとに融合した完成度の高い作品で全員一致で決定した。その他おしくも候補をのがしたものの何人かの審査員に興味を持たれた人に小山栄と、せきまさはるがいた。全体の印象としてはユーモラスな作品は非常に少なく、技術のレベルは高いがオリジナリティーにとぼしい作品が多かったように思える。ある審査員から、「これだけの技術がありながら……」の意見も出た。面白かったのは作品の技法が一目ではわからず、やっとわかってから感心したり、わかったために落選したりした一幕もあった。版画の技法は今日では非常に複雑になって来ている。たとえば「銅版」と記されていても正確に銅版だけで出来ているとはかぎらない。作者によってはわざと正確に記さずアイロニカルに偽ったりあいまいにしたりする者も少なくない。そこで見る（批評・審査）する側は、出来るだけくわしく正確に技法を知り逆の方から推理小説のカギをひもどくように作者（作品）にせまるのも一つの「見方」になるのではないか。

高柳 裕

- 搬入点数 128点（57人）
- 入選点数 40点（36人）

彫刻

これまでと同様に、彫刻と立体造形は、2つの部門として、応募をうけている。

彫刻も、3次元の表現であり、広い意味では、立体という範疇にはいるだろう。

彫る、刻む（肉付けする）という彫刻と、新しいコンセプトを持つ立体造形は、同一の場で語りえない部分をもちながら、その周辺部では、共有するところがある。

あくまで、便宜的に部門を分けているが、出品者にとっては、混乱のもととなる。改善の余地があるだろう。いまは、自らの選択に従わなければならない。

今回は、例年にくらべて盛況であり、応募作品が増えた。応募作家、32名（うち、女性 6名）。点数46点である。数字的にみれば、多くはないが、彫刻のもつ性格上、いたし方ないことだろう。

年齢的には、20才前半から60才代と、あつい層をもつ。

塑造による具象の作品は多かったが、単なる写実的な手法でなく、量塊、ムーヴマンを強調しながら、作家の制作意図を、はっきりとめしめすものが目にとまった。

また、いままであまり見られなかった、抽象形態、構成による環境芸術に近い作品が、興味をもってめめされる。

素材の多様化、想像力に富んだイメージなど、バラエティのある作品により、ある活気が生まれた。

かつてのような大作は少なかったが、結果的に、28点が入選した。特選をうけた土井宏二は、まだ学生であるが、社会の不安と焦燥を「語部」を通じて表現しているかのように思われる。大理石を素材にして、大作を試みた梅田勝裕、量塊と荒い肌合いでナイーブな力感をもった辻忍、ユーモラスな抽象形態をもつ奥野ゆか。4名の作家が受賞している。

若い世代の作家たちであり、今後の活躍を期待する。

柳生不二雄

●搬入点数 46点（32人）

●入選点数 28点（26人）

立体造形

今年の立体造形部門には35名から41点の搬入があった。昨年よりかなり少ないため、入選を15点ぐらいに厳選してはどうかという話し合いからはじまった。絵画からの延長の平面的な作品から小規模なインスタレーションによる作品等表現スタイルは多岐にわたり、全体的には質が揃っているために何点もが入選と選外の間に保留をよぎなくされ、絞り込めずに19点の入選となった。惜しくも選外になってしまった作品にも可能性が内包しており、今後に期待が持てるものが多かった。

賞候補を決めることになり、最初にピックアップされたのが、赤錆びた角柱をカーヴさせて空間を抱え込むように組んだ栢沼州良の〈潮風〉であり、そのまとまりの良さが候補の決め手になった。次に、銅板で封じた大木を白砂に寝かせて、鉛を象嵌した三日月を配し、日本的なシチュエーションでナラティブな説得力ある津田竜之介の〈SEIREI〉が選ばれた。それから森島郷子の、薄い紙を幾重にも糸で縫い合せて空気を孕ませ、濾過するかのように宙に浮かせた軽やかな〈××No.3〉が決まった。もう一点を決めるのに時間がかかった。声がかかったのは、ねじ曲がった古木を厚い鉄板に挟み込み屹立する力強い造形の、田中太賀志の〈風と月〉と、何だろうと人を引き着け、よく見ると引き伸ばされた答案用紙であり、内容まで読みとれ、コミュニケーションを逆手にとった若々しい発想の、岡本禎子の〈色あせた偏差値一〇二〉、そして古色然とした世界を驚嘆みにして陳列した異色作、倉橋元治の〈縄文頌（修羅）〉の3点だった。作品の力量では田中、面白さでは岡本で、倉橋は両者に一歩譲った感じだった。協議の末、田中に決まった。賞候補にもうひと枠あれば岡本の作品が惜しまれた。

中井 恒夫

●搬入点数 41点（35人）

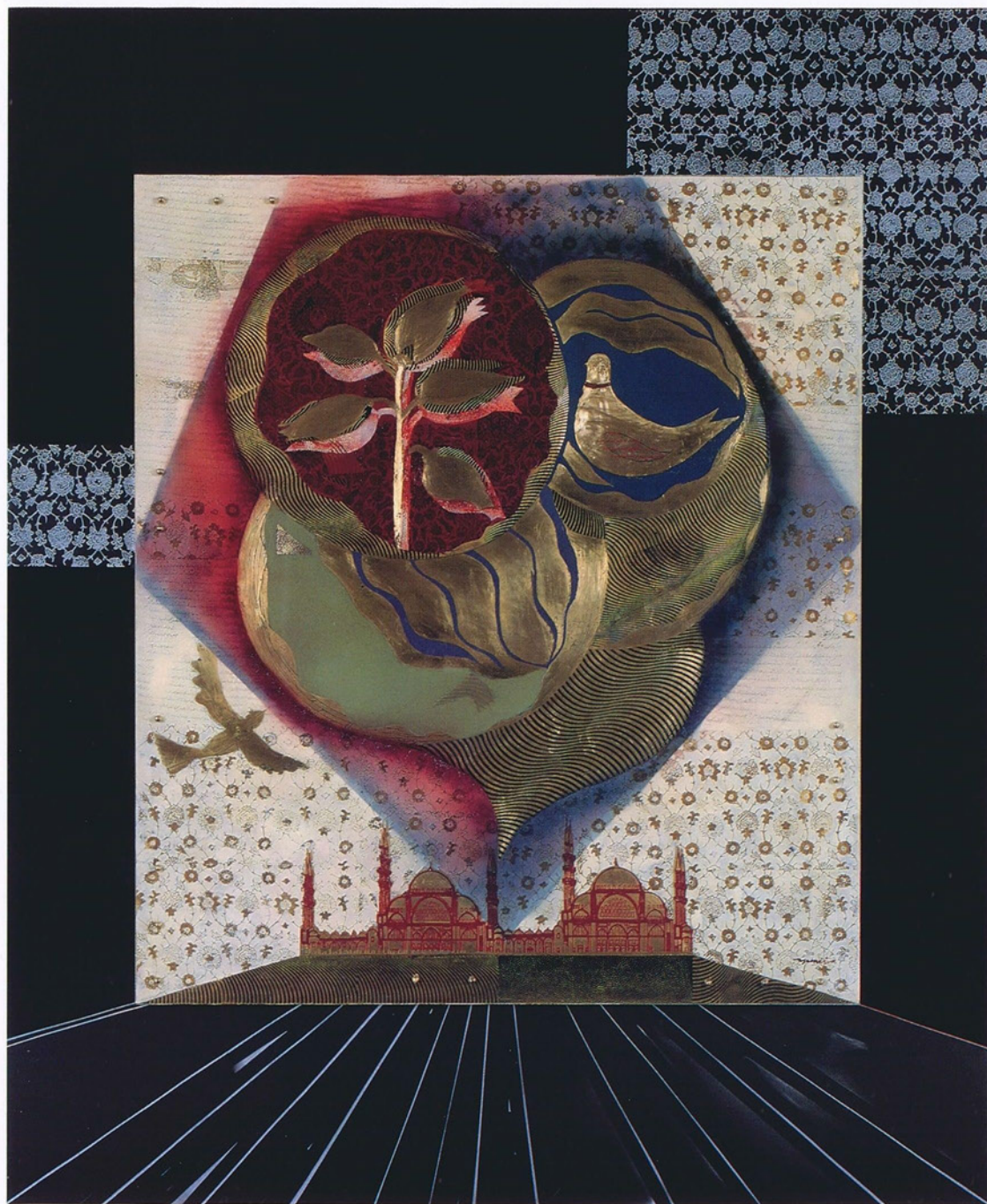
●入選点数 19点（19人）

工 芸

書

写 真





大賞 ■ 菅間ゆみい 夢印象 (工芸)



準大賞 ■ 松田松逕 よしの山桜にかかる夕霞 和歌一首 (書)



準大賞 ■ 白井 孝 炸裂 (写真)

Handwritten Japanese text in a cursive style (sōsho), likely a collection of poems or prose. The text is written on a light-colored paper with a vertical crease down the center. The characters are small and closely spaced, typical of traditional Japanese calligraphy.

特選 ■ 北條加奈子 百人一首より (書)



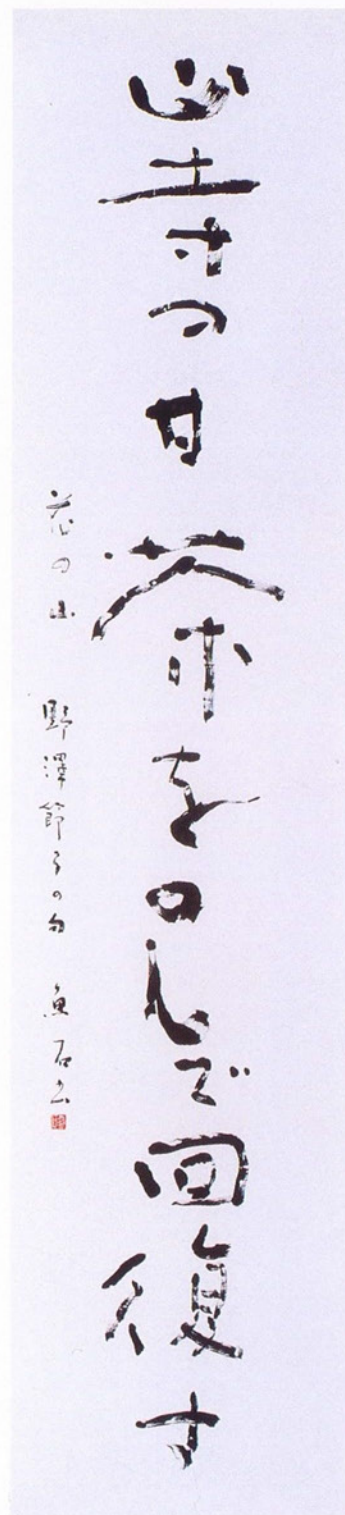
県議会議長賞 ■ 奈良 巖 '88 A TURNING POINT (W1,W2) (写真)



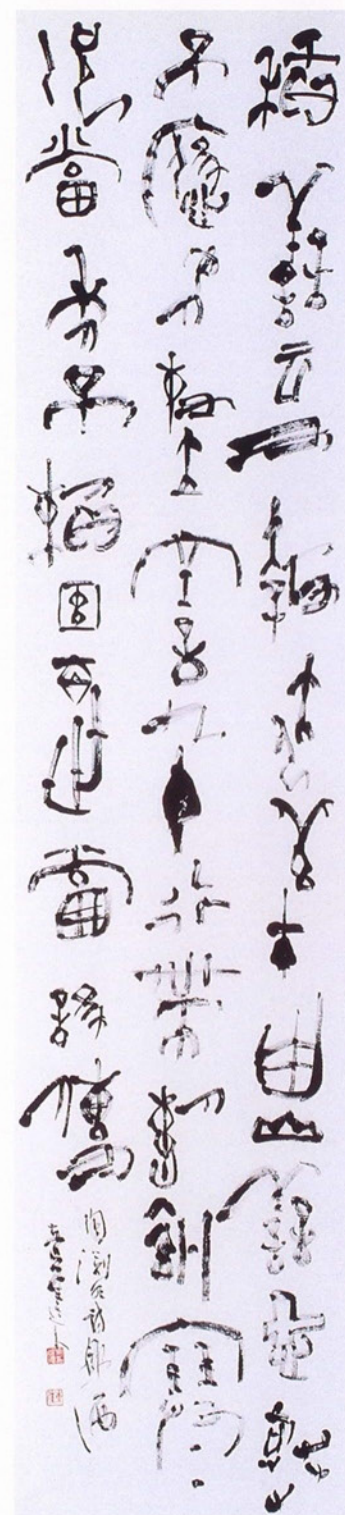
美術奨学会賞 ■ 橋口義昭 五泡高台大鉢 (工芸)



美術奨学会賞 ■ 勝 文彦 シーズナル・カプセル (工芸)



美術奨学会賞 ■ 川瀬魚石 近代詩文書 野澤節子の句 花の山 (書)



美術奨学会賞 ■ 栗橋東崖 陶淵明の詩(飲酒) (書)



美術奨学会賞 ■ 青木繁雄 こころのふる里 (写真)



美術奨学会賞 ■ 大塚 淳 夜色(Venezia) (1,2) (写真)



美術奨学会賞 ■ 清水 光 夜叉 (写真)



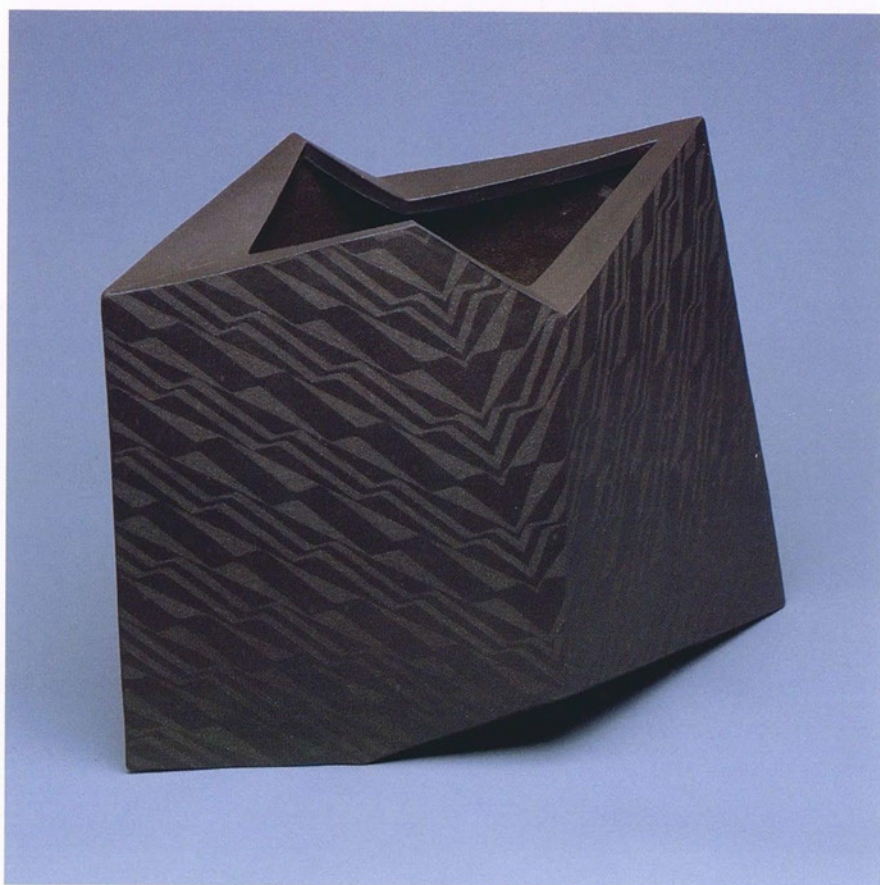
美術奨学会賞 ■ 清野義雄 南国の浜辺(万座ビーチ) (1,2,3) (写真)



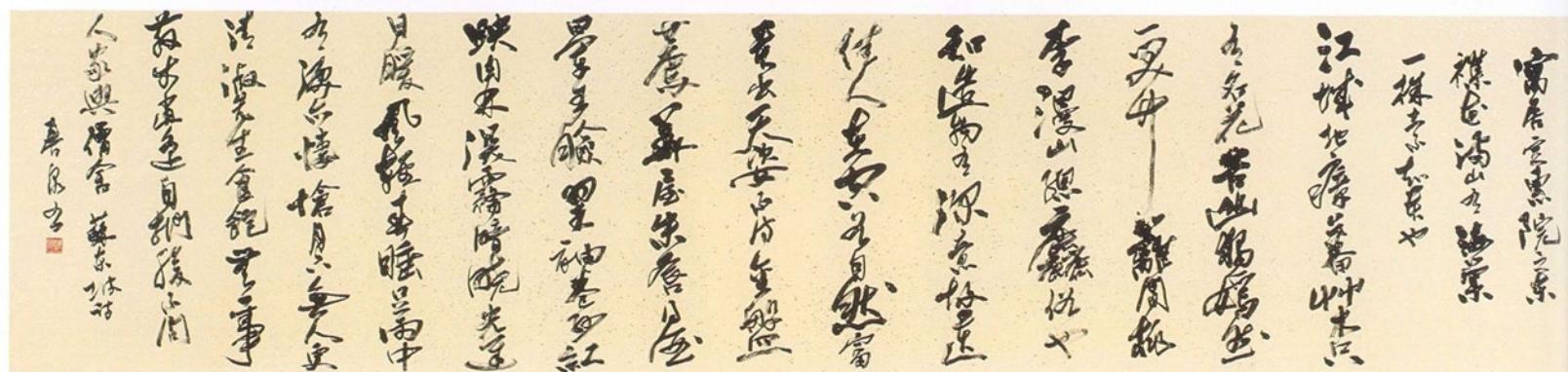
特別奨励賞 ■ 高野聖子 この空をとべたら (工芸)



特別奨励賞 ■ 後藤よし江 紬織物 (工芸)



特別奨励賞 ■ 平賀妙子 焼メ波 調紋器 (工芸)



特別奨励賞 ■ 谷口春泉 蘇東坡詩 (書)

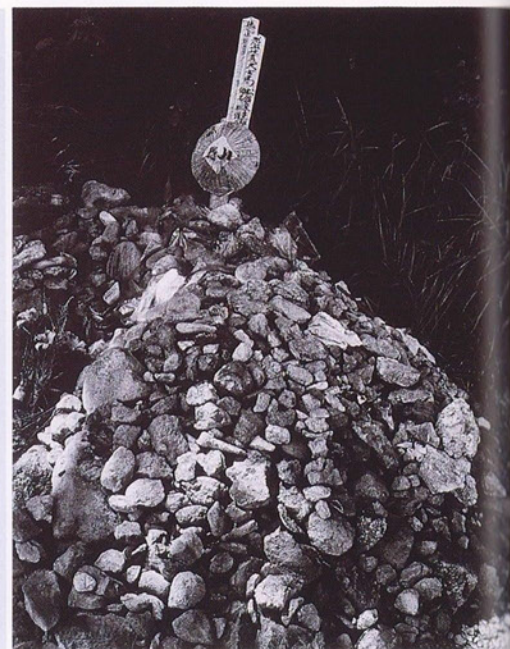
一上高城萬里愁
 春風楊柳似汀洲
 日沈西望山回
 路來風滿樓
 笛吹殘夢
 春夢
 故園東去水長流

許渾詩 咸陽城東樓 江雪書

特別奨励賞 渡辺江雪 許渾詩 咸陽城東樓 (書)

秋風吹落葉
 萬里歸人
 日沈西望山回
 路來風滿樓
 笛吹殘夢
 春夢
 故園東去水長流

特別奨励賞 齊藤紫香 おち葉 (書)



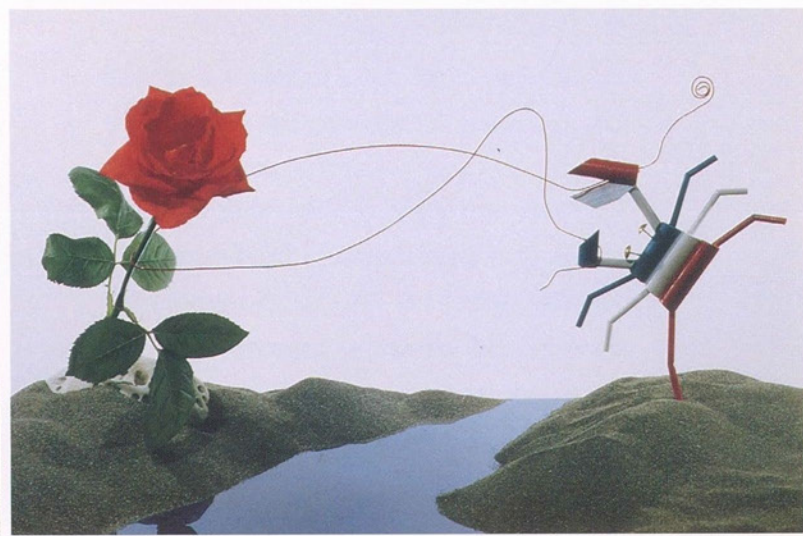
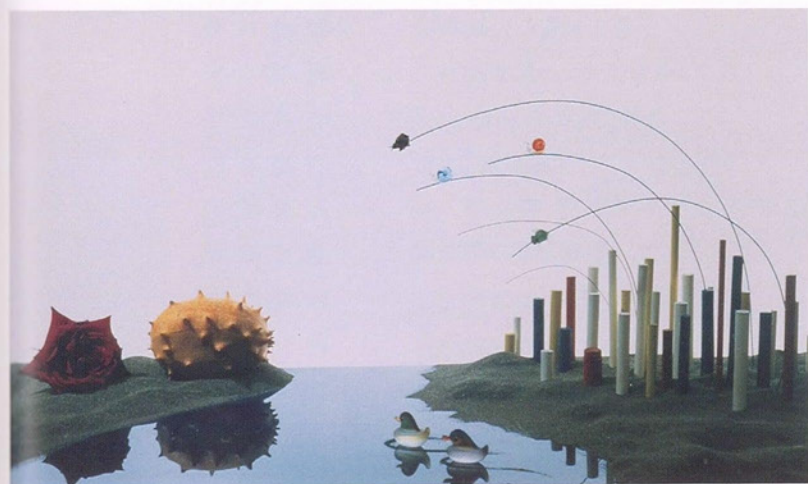
特別奨励賞 ■ 葛西清悦 稚児和讃 (1,2,3) (写真)



特別奨励賞 ■ 勝俣晃男 黒のポジション (写真)



特別奨励賞 ■ 堀坂和夫 家路へ(台湾・月世界) (写真)



特別奨励賞 ■ 姫野日出夫 PHOTO POESY (C102,C103) (写真)

受賞作品目録 〈工芸・書・写真部門〉

大 賞

菅間ゆみい 夢印象〈工芸〉

準大賞

松田松逕 よしの山桜にかかる夕霞 和歌一首〈書〉

臼井孝 炸裂〈写真〉

特 選

北條加奈子 百人一首より〈書〉

県議会議長賞

奈良 巖 '88 A TURNING POINT W1 〈写真〉

'88 A TURNING POINT W2 〈写真〉

美術奨学会賞

橋口義昭 五泡高台大鉢〈工芸〉

勝文彦 シーズナル・カプセル〈工芸〉

平野朱美 Automaticの赤〈工芸〉

河合瑞祥 韓愈詩〈書〉

川瀬魚石 近代詩文書 野澤節子の句 花の山〈書〉

栗橋東崖 陶淵明の詩(飲酒)〈書〉

青木繁雄 こころのふる里〈写真〉

大塚 淳 夜色(Venezia)(1)〈写真〉

夜色(Venezia)(2)〈写真〉

清 水 光	夜叉<写真>
清 野 義 雄	南国の浜辺(万座ビーチ)(組1)<写真>
	// (組2)<写真>
	// (組3)<写真>

特別奨励賞

高 野 聖 子	この空をとべたら<工芸>
後藤よし江	紬織物<工芸>
平 賀 妙 子	焼メ波調紋器<工芸>
谷 口 春 泉	蘇東坡詩<書>
斉 藤 紫 香	おち葉<書>
渡 辺 江 雪	許渾詩 咸陽城東樓<書>
葛 西 清 悦	稚児和讃(組1)<写真>
	// (組2)<写真>
	// (組3)<写真>
勝 俣 晃 男	黒のポジション<写真>
堀 坂 和 夫	家路へ(台湾・月世界)<写真>
姫野日出夫	PHOTO POESY C102<写真>
	PHOTO POESY C103<写真>

入選作品目録

工 芸

天野 雅 史 黒柿螢火文様香炉（台付）
 鈴木 貴 夫 鼠志野線紋壺
 小山 岑一 呉須刷毛目組鉢
 山崎 和子 Moving Space
 澤里 範子 オーケストラ リハーサル
 金子 金 作 油滴壺
 藤 野 實 1988. ある日
 伊藤 律子 華 片
 建部 敏 枝 ブローチ(2ヶ) イヤリング1組
 歌田 輝 雄 彩土練込壺
 長井 良 富 彩土線文壺
 村田 則 子 '88 ウォーターフロントの街
 村田 光 義 大壺 夕闇
 石川 節 子 紬織着物縄文
 中曽根 馨 大羽根文壺
 稲村 正 七 つ ぼ 1
 梅田 千 晶 作 品一B
 八重森 千 賀 敬 慕
 小川 祐 子 組紐細帯（高台）
 小川 祐 子 組紐帯メ 吉原つなぎ（高台）
 大澤 恭 代 型染訪問着「しゃくなげ」
 山田 悦 子 つけ下げ型染“心模様”Ⅱ
 高橋あづま ナチュラリー・グリーン&グリーン
 和田 媛 岳 鎌倉彫 鉢
 桑原 弥 重 子 木ノ葉天目茶碗
 中島 光 雄 流浪の俳人 山頭火
 佐々木 暢子 大内桐文様
 大 湊 一 恵 夢の宮 Ⅱ

山田 秀 雄 青 峰
 平山 敏 文 めばえ
 井上 達 宙への転回Ⅱ
 菊田 明 象巖鱗紋大鉢
 菊池 英 代 有線七宝香炉 紫式部
 大西 節 子 UO・・・
 山口 浩 二 宙吹硝子花器「波柱」
 宮井 美 津 子 彩漆の皿 A
 宮井 美 津 子 彩漆の皿 B
 楠 隆 雄 花文彩磁壺
 木村 隆 男 焼締窯変壺
 金 子 清 天月釉菱文皿
 吉田 健 二 急 須
 吉田 健 二 土 瓶
 佐々木 繁 自然釉壺
 島村 信 一 赤い波紋
 広瀬 祐 見 刻々たる構造
 鈴木 宣 練上壺
 小山 邦 子 草木染、ローケツ、屏風 ふじ
 田島 節 子 紬織着物「木立ち」
 堀口 成 依 赤い布
 内野 勝 雄 流斑釉壺
 村田 五 郎 黄瀬戸蔦の文大皿
 並木 昭 代 花のある情景
 栗原 恒 子 工芸（余韻）
 広瀬 悦 孝 緑釉面取壺
 関口 正 美 つづれ
 佐々木 達 行 三島敦盛草文壺

永田一輝 「かたつむり」
 小野寺和子 遠菱 着物
 吉崎僚一 波魚文三島鉢
 吉崎実紀 白地唐草文搔落 小鉢六客組
 早川昌子 帆 船
 咲本征一郎 裂
 八木橋芙美子 哀 歡
 木戸正勝 平茶碗
 瀬戸毅色 青磁壺
 小沢和枝 安 息
 増田かよ子 徨
 高棹次世 夕 映
 桑原平治 飛鉦白象嵌壺
 角村治城 連形六角文壺
 鈴木義之 クリスタル コンポート
 加藤静子 紬 藤影
 雨森千代子 こざん
 金子信子 打抜き流文花器
 大八木由紀子 夢の中で
 多々内郁子 韻 象
 山田美穂子 希 望
 遠藤盛男 布目花文平鉢
 オゼルブラ ギルメット TOKYO 暮色
 原 茂 一 伊ら保釉 つぼ
 横田 敦 銅釉壺
 青瀬美智子 PYRAMID POWER II
 坂本采季香 Shadow in Silver
 米 山 光 緋襷壺

羽生恵子 平面遊戯 No.1
 阿部一順 「うず」
 松原夫佐子 抹茶碗
 谷田部君江 爽
 中村昌子 金赤被硝子組鉢
 山崎絹子 横浜レンガ倉庫
 三浦昌子 大地の詩
 日比聖美 藍色のモザイク
 本田敏晴 罨(わな)
 村主武 比 較
 宗 像 昭 灰釉壺
 土橋一博 金赤藍泡文中鉢
 松山香代子 鳥葉紋飾り壺
 成田華仙 友禅長着 「山振の花」
 福岡幸基 グラヴィール 椿文花器
 清水隆史 萌 生
 今村武史 The Milky Way
 益崎慎吾 Seigen
 西田高子 香炉 想
 大塚 正 窯変鉄紫釉茶碗
 南部泰子 銀研出文脚付皿
 安井顕太 BRAND NEW DAY
 小園敏樹 側八面四方箱(3ヶ組) STRUCTURE
 魚見一子 象嵌円筒壺
 三輪博子 愛
 奥田光代 三月の窓
 佐々木松雄 均窯壺
 大木一与 志の壺 夢源

太田美佐枝 (人形) 母と子の詩
 鈴谷茂翁 蒔絵、山男のロマン
 工藤直 WOMAN'S BODY
 高木真生 波文壺
 吉澤澄子 落日
 久村春子 ボタン
 渋谷良治 波の響き
 宮内恭子 一越訪問着 「山なみ」
 波多野安希 Aquarius
 中村良哉 八角深鉢 「つゆ」
 河原るり 風
 亀田智子 WILD IN THE STREETS
 大原乾資 染藍型染 梅竹松文
 水越繁 想いで
 高垣篤 青瓷象嵌壺

書

黒坂春香 和歌二首 「花の色は」
 臼田美香 和歌五首 「すすしやと」
 佐藤秋翠 短歌二首 「むらさきの」
 加藤靖湖 山家集 (羈旅歌)より
 薄木水雲 寒山詩
 棧敷東石 山部赤人不尽山を望みて詠める歌一首並びに短歌
 木多良子 万葉の歌
 丸山美津江 月
 松永瑞子 なつの夜も
 溝口京子 書 (秋の月)
 木田南岳 菅原道真詩
 山口澄翠 題慈恩塔
 飯森芳苑 杜甫詩返照
 竹内素明 牛瀑丹楓
 古賀桃允 和歌二首 梅の花いまさかりなり…
 伊藤青光 万葉の歌
 関口青霞 君がため
 平田由江 金陵城の西樓月下の吟
 川島喜代美 送友人
 杉山幽翠 幽州夜飲
 内山幽蘭 南樓望
 福井幽紅 同王徵君洞庭有懷 (張謂)
 福島加代美 良寛の詩
 今井幽耿 杜審言詩
 鈴木玉葉 幽州夜飲
 深松耿翠 破山寺後禪院
 菊地順恵 顧況詩 2首
 入江正洲 江南旅懷(五言律詩) 祖詠詩

山口 清 晞 温庭筠詩
貫 井 芙 蓉 吳昌碩詩
浜岡日出夫(見雲) 杜甫詩
原 田 白 汀 李白の詩
三津木芝影 陶淵明詩
黒 田 抄 崑 許灝の詩
小巻清(仙宝) 寒山詩
尾 家 瓊 崑 王漢洋詩
竹 俣 華 崑 陸游詩
小 林 清 坡 漢詩三首
横 山 芳 碩 蘇東坡詩一節
志 村 魯 崑 陸游の詩二首
岸 村 白 山 王維詩 (唐詩)
江 口 龍 路 孤舟相訪至天涯
新 井 青 谿 吳城感舊
和 氣 清 堂 李白詩將進酒
沓 掛 和 絵 夕暮の歌二首
平 間 愛 子 藤原行成掌針切
塩 沢 郁 子 本阿弥切
佐 藤 俊 恵 中勢集臨
矢 追 貞 子 めぐりあひて
箕浦さおり あをやざ
原 隆 二 山 里
御 園 順 子 ひぐらし
池 上 好 子 富 士
澤谷比呂子 与謝野晶子のうた
徳 久 郁 凌歊臺
篠 原 圭 苑 李商隱詩

杉 山 梅 波 王維詩
中 村 蒼 汀 五湖游
新 屋 京 子 許渾詩
小 川 如 泉 王維詩
高 橋 蘭 徑 四季の歌あつめ
吉 川 蕉 雨 古今集より
黒 田 香 影 百人一首
松 岡 梅 影 鏡獅子
高 崎 浩 子 万葉の歌
宮 川 勝 美 関戸本古今集 (臨)
立 木 紫 絢 花鳥風月
川 手 敬 湖 新古今和歌集 むらさきの色に心はあらねども深くそ人を思ひそめつる
渡 辺 萩 蕙 坪野哲久の歌
岡 本 蘇 心 島木赤彦の歌 “霧が峰のぼりつくせば目の前に…”
小 澤 蕙 芳 長塚節の歌 二首
明 石 蕙 州 金子薫園の歌 二首
浅 間 秋 蕙 冷泉為恭の歌
秋重冷子(萌永) 憶良の歌 二首
古 思 蕙 風 和歌一首 (伊藤左千夫)
横 山 蕙 静 小野小町の歌
城 所 良 佳 杜甫詩
府川香代(小堀) 三十六歌仙 (かな)
山 本 花 聲 唐 詩
栗 野 蝶 ねむる子に
石 井 富 代 雁来紅
伊 藤 香 湖 田中冬二の詩
大 内 弘 子 近代詩文書 梢の空 三好達治詩
大 木 銀 子 ホイットマンの詩

大木明子 楠本憲吉の句
荻原洋子 岡部伊都子の詩「橋」
小野寺聖石 近代詩文書 越中へ 田中冬二の詩
糟須海夏子 北ホテル（新藤涼子の詩）
國谷 寿 吉野弘 六体の石の御仏
小林千幸 銀杏（西條八十の詩）
指簀登美 風の旅より
佐高捷 劉長卿詩
佐藤春水 近代詩文書 巖美溪を旅して
鷺見奈保子 串田孫一の詩「舞い落ちた星」
関根玄道 近代詩文書 更科源蔵の詩 海
曾雌公子 冬景色
高橋良江 天の川
渡辺美代子 童
綿貫吉野 昼の月
滝沢秀石 近代詩文書 島田芳文の詩 日本のふるさと
玉田まみ 曼陀羅
千葉清子 春
問馬敬竹 村田四郎の詩（夏野）
南雲喜美恵 月
林 フク 李白詩
馬場陽子 立原道造の詩
林 久美子 梔子（薩摩忠の詩）
廣川心齋 八木重吉の詩 ゆうぐれの松林
穂坂美代子 蝶の舞（坂上茂子の詩）
水野裕子 更科源蔵「蒼鷺」
武藤静香 野口雨情詩 赤い靴
茂又武子 島崎藤村詩 潮音

安田達子 風の旅より
八木香葉 故郷
山根静子 良寛詩
八十川悦子 めぐり逢ひて…その他百人 首歌四首
高原香蘭 関戸古今集臨書
橋本芳雪 山里（山家集）
河内笑子 漢字かなまじり文—川崎の昔話より鼻取地藏—
田口嶺美 かな臨書（伝 藤原行成書 重之集）
東山右徹 贈良相公詩
松尾右翠 杜牧詩
菊島右雪 性靈集より
中溝右曄 杜牧詩
土屋右泉 性靈集より
春山右濤 杜甫詩
滝口伸葉 李白詩
澄川舟芳 蘇東坡詩
樋口東茜 婦去來辭
埴原紅芳 屈原詩
矢田香芳 蘇東坡詩
細山明芳 杜甫詩
木須青苑 陶淵明詩
山田恵茜 西山（常建詩）
横山蘭葉（杜甫詩）王閬州筵奉酬十一舅惜別之作
和田静月 藍田山石門精舍
谷川初葉 柳巷
大木修葉 杜甫詩 二首
梶川景谷 岑參詩
伊藤静俊（白居易詩） 泛太湖書事寄微之

元 松 松 茜 五言古詩
吉 田 嘉 洋 杜甫詩 秋興八首の中の其一、其二
田 中 睦 光 七言律詩
富 山 陽 寿 王維詩 終南別業
米 原 保 手 夜別韋司士得城字
門 田 可 寿 渡 海
英 瑛 香 聞隣家理箏
鴻 池 祥 谷 劉禹錫詩
安 部 梅 陽 李賀詩
大 澤 緑 芳 香紙切
大江喜桂華 古今和歌集
武 田 瞳 処 唐 詩
柴 岡 明 洞 袁宏道詩 (江進之の別 水の詩に答う)
貝 原 玉 峰 李白詩
森 俊 行 島木赤彦のうた
青 木 湘 堂 張來詩
杉 森 玉 園 李賀詩
石 原 信 子 百人一首 (50~61)
前 田 啓 春 劉滄詩 二首
吉 田 翠 山 杜甫詩
尾 崎 静 鳳 登樓賦
森 草 坡 杜甫詩 五首
菅 野 堯 処 陶潛詩
鎌 田 柁 処 李白詩
田 邊 貴 翠 李商隱詩
長 島 正 恵 西本願寺36人集 友則集 (臨書)
野 頭 莊 雲 韓偓詩
小山カヨ子(註雪) 江上聞笛

池 田 莊 春 偶然作 (王維)
田 村 秀 亭 蘇味道に贈る
小俣照子(桃宇) 江上吟
野口豊(翠香) 和姚給事寓道之作
神藤松代(註松) 唐詩 孟門行
加 藤 純 子 五言絶句
入 澤 八 祥 隸書千字文
片 岡 和 風 吉田一穂 海の聖母 雪は秘めて夜半の言葉を語り…
口村妙子(光聖) 三吉野は山もかすみて
渡 辺 幽 佳 霞
岩崎勝(勝瀨) 杜甫詩 吹笛
水 野 汪 春 玉華宮
若 林 花 泉 唐 詩
鈴 木 天 鳴 鮫人歌 (李頎詩)
田 所 寿 泉 経下邳圯橋懷張子房
木 下 滔 泉 奉使巡檢雨京路種果樹事畢入秦団詠歌
三 原 和 子 夏から秋へ 一森直太郎の歌一
宮 澤 青 峰 鄂君啓節 (舟節) の臨書
西 村 百 代 季商隱詩 馬嵬
鈴 木 香 旗 沙門良寛詩

写 真

酒井辰夫 柘 榴
 波田野誠司 都市の恋人達
 山下由美子 Siesta
 越川敏子 パラグライダー(シャモニー・フランス)
 立川昭彦 厳冬のスケソウ漁
 鈴木貞夫 鎌倉 古寺にて I
 澤田秀雄 鸚鵡 おうむ A
 渡辺照義 白い猫
 たなか陽子 所作(3枚組)
 坂正久 霧の丹沢
 加藤心一 祭主の舞
 三瓶賀子 幽 玄
 植山弘 しぶきと怒濤のなかを (ナイヤガラ)
 藤井けん 著我しづがとキリギリス
 小俣吉弘 溪流の交響
 石渡四郎 水揚げ (3-1)
 石渡四郎 水揚げ (3-3)
 埜渡光雄 扶桑花来蝶
 矢野和夫 三日月
 戸塚吉久 晩秋の風
 吉岡清 夏の訪れ
 上石寿美雄 朝 霧
 北島貞夫 小倉橋
 山田美代子 童子まんだら (鎌倉 光触寺)
 大西恒一 こきりこ節 幻界
 橋本春男 真夏の形象
 和田幸夫 セレナーデ
 田村亮一 水 浴

牧野滋夫 華 影 No.1
 牧野滋夫 華 影 No.2
 牧野滋夫 華 影 No.3
 牧野かずおき 滋夫ごす SASSA II
 小室寛 スカーフ
 上原公平 北国からの便り
 山崎廣 日本スポーツパラシュート選手権大会 I
 小野肇 四天王 (4枚組)
 尾原芳子 アゲハ三態
 刑部けいべ 甫はじめ 黎明の湖
 桜井正 花一輪 (オリヅルラン)
 中川英治 朝の山稜
 渡邊信雄 寂 光
 岡部豊 生いのちの命 II
 藤原義守 光の屈折 A
 藤原義守 光の屈折 C
 本間英夫 澄 景 (ちょうけい)
 直井三男 客待ちの仕立屋
 関口幸雄 ひとやすみ
 佐治利雄 ピエロ哀歌
 菅野俊光 北国の春
 土屋誠一郎 石仏新粧
 土屋誠一郎 船 祭
 内田幸夫 雪のメルヘン
 石谷一郎 出番前
 大堀サカエ 雪降る湖畔 (1)
 小室八千雄 海 峡
 小室八千雄 太陽と大地

キムラ ノブオ 春光の中 A(ムスカリ)
北 本 幸 一 流鎬馬 (3枚組)
ア キ オ 新体操 (乱舞)
阿 部 滋 子 崩 壊
梶 川 利 行 過 密
村 山 章 春日和
渡 部 正 吉 舞 う
望 月 勝 美 フェイス
榎 田 守 祭礼えの舞
萩 谷 芳 美 碧い湖
蒲 原 正 久 ポピーの咲く頃
杉 崎 栄 次 取上観音
赤 羽 正 光 ひつじぐさ
前 田 圭 一 夢想一葉
片 岡 順 一 夜間離着陸の航跡 (厚木基地)
衣 川 浩 シュカブラ
渡 部 満 祭りの若者達
小 宮 信 幸 冬木立
中 島 勝 広 静かな森

工芸

第24回神奈川県美術展 2 期展（工芸・書・写真）の審査は、昭和63年 9 月 7 日（水）午前10時から午後 4 時までの 6 時間にわたり、神奈川県立県民ホールギャラリーにおいて、各部門ごとに慎重かつ厳正に行われた。

今年の工芸部門における応募点数は251点、これを昨年の271点と比較すると20点少なかったことになるが、作品のレベルは今回の方がやや上向いている感がある。

審査は 6 人の審査員で実施され、先ず最初は応募作品の 1 点ずつを前にして、入選に値すると思う場合は各自挙手をする方法がとられた。その結果、挙手 6 人の作品67点、5 人が40点、4 人が28点、3 人が20点、2 人が21点、1 人が24点、挙手なしが51点ということになったのである。そこで支持のない51点と 1 人支持24点の計75点は落選に決め、6 人と 5 人と 4 人が支持する計135点は一応入選としたが、この中には同一作家の出品がかなり在ったので、その場合は良い方一点にしぼり、さらに 3 人・2 人支持の中からも繰返し慎重に審議を重ねて引上げるものを決め、計134点が入選した。

次いで入選作品の中から賞の候補として、菅間ゆみい作（漆工額）「夢印象」（横浜市内勤務）、勝文彦作（七宝額）「シーズナル・カプセル」（湯河原町在住）、平野朱美（染色額）「AUTOMATIC の赤」（横浜市内勤務）、橋口義昭作（硝子）「五泡高台大鉢」（厚木市在住）、後藤よし江作（着物）「紬織物」（横浜市在住）、平賀妙子作（陶器）「焼メ波調紋器」（川崎市在住）、高野聖子作（人形）「この空をとべたら」（横浜市在住）が選抜された。

午後 4 時から、2 期展の大賞選考が行われたが、今回、幸いにも工芸部門の中から、上記した菅門ゆみい作「夢印象」が大賞を受賞したことは喜びにたえないところである。

彼女は横浜市緑区にあるトキワ松短大に勤務し、カシュー漆を主体とした平画造形、特に漆画の研究に余念がない。この作品もその一例で、真鍮の板に蠟で模様を描き酸で腐蝕させた凹部に漆を塗嵌めてから画面を研ぎ出す手法である。画材は三年ほど前、トルコのイスタンブールで見た回教徒寺院（モスク）での夢のような印象、特にヨーロッパでも東洋でもないエキゾ

チックなビザンチン芸術に強い感銘を受けたことが主体となっている。

いくなれば、ビザンチンのモザイクタイルの感覚を彼女なりに現代に生かした見事な漆芸である。既に中央でも日展や現代工芸美術展において活躍、県展には6回の入選歴がある。

吉田 耕三

●搬入点数 251点 (191人)

●入選点数 134点 (131人)

書

長年出品数が増加していた書部門ですが、この2年ばかり若干出品数が減少しました。これは入選レベルが向上し規定寸法以下の小作品出品が殆ど見られず出品者層が安定した為と思われます。

本年度の特色は仮名作品に於いて顕著に現われたと思います。先づ仮名作品の出品数が増加し近代詩文書と併せますと漢字に迫る勢いがあり、今迄漢字作品の圧倒的数字から比べますと時代の趨勢を感じます。次に仮名の出品作は非常に良質の作品が多かったのですが残念乍ら臨書作品が多く、もう一歩踏み込んだ独創的な作品が少なかったことです。これは漢字作品にも謂えることですが古典に頼ると自運に較べ遥かに楽に作品になる。また古典に頼った作品迄自運の作品を持ち上げることは非常に困難ではありますがこの辺を出品者に一考願いたいと存じます。

漢字作品は例年に比べ類型的な作品は減りましたが未だ団体系色が濃く、仮名同様独創的な作品を期待します。近代詩文書はその持っている性質から個性的な作品が多く見られ今後の展開が楽しみです。

今回準大賞を受賞された松田松逕君の作は大字仮名を巧く構成し、纏め上げ、特選の北條加奈子君の作は自運であり乍らよく古筆の息吹を伝え、川瀬魚石君の作は淡々として爽やかな味を出し他の受賞作も各々格調のあるものでした。

審査を省みますと全体を通して感じましたのは落款部分です。漫然と雅号を記している作が多く詩人名や題名の書き入れ方も随分と乱暴な作があり落款で作品を壊してしまっている作が幾つもありました。そこで来年度より出品の際に釈文、出典等を添付することを決定事項と致し、来年度からより一層内容の充実した作品を出品されることを期待します。

殿村 藍田

●搬入点数 260点 (260人)

●入選点数 196点 (196人)

写真

いい賞をとりたいと一所懸命になる人、入選して展示されればいいと思う人、いろいろである。コンテストである以上、賞をめざすのも当然のことだが、入選して多くの人に見てもらえばいいと思う奥床しさも見上げたものだ。そうした謙譲さが、画面に泌みて入賞することもある。見事に準大賞に光った臼井孝「炸裂」は、多数の花火の映像を追究して、完成させた作品だ。夏空に儚く消える瞬間美を、歌いあげた。県議会議長賞の奈良巖「ターニング・ポイント」は、ヌードをモチーフに、コラージュを回転させる手法で創ったもので、幻想的な面白さである。前回の都市の崩壊につぐ、第二弾だ。今回は複写したことが進歩である。清水光「夜叉」は、ポスタリゼーション手法による夜叉像で、やはり幻想的写真の妙味が面白い。今回は、図らずも新技法の二作品が並列された。青木繁雄「こころのふる里」は、田舎の素朴な祭の美しさに魅力がある。ありきたりの祭ものでないのが、優れている。清野義雄「南国の浜辺」は、沖縄らしいエキゾチックな海辺風景で、ロマンが溢れている。水着に着替える少女の姿態をよくぞ促えるのに成功した。それが効果的であった。大塚淳「夜色」は、南アメリカのベネズエラの風景であるが、外国の風景は珍らしくもあり美しいが、ともすると通俗的な絵葉書になりやすい。夜景を写したことによって、心象になって、作者のいうベネズエラの夜色のムード、わかるような気がする。堀坂和夫「家路へ」は、台湾の羊の放牧を題材にして、スケールの大きな風景であった。放牧の民という言葉があるが、観光旅行では月並なコースを見物するので、こうしたロマンの状景をとらえることは少ない。姫野日出夫「フォト・ポエジー」は、創りあげた静物の世界のメルヘン的な情緒が、美しく描かれた。童謡のメロディーが、きこえてくる。勝俣晃男「黒のポジション」は、千葉のディズニーランドの建物を写したもので、前景の黒は、台風がくるのでパラソル群にビニールを被せたのが、風景を変えた。風景のハプニングである。葛西清悦「稚児和讃」は、恐山の子供の供養の祭礼の光景だ。さいの河原を背景にして、御詠歌の聞えてくるような作品となった。

奥村 泰宏

- 搬入点数 185点 (107人)
- 入選点数 99点 (79人)

大賞受賞者

- | | | | | | |
|------|------|-------------------------|------|------|-------------------------------|
| 第1回 | 40年度 | 大森運夫「九十九里」《日本画》 | 第20回 | 59年度 | 東谷武美「日蝕F」《版画》 |
| 第2回 | 41年度 | 廣瀬義男「作品I」《洋画》 | 第20回 | 59年度 | 西 雅秋 |
| 第3回 | 42年度 | 垣内治雄「坐る」《彫刻》 | | | 「CASTING VIEWPOINT」《野外彫刻》 |
| 第4回 | 43年度 | 川村直子「'69-A・'69-B」《洋画》 | 第20回 | 59年度 | 林 亘「クリスタル大鉢“洞”」《工芸》 |
| 第5回 | 44年度 | 山井イク夫「Lady70-1・2」《立体造形》 | 第21回 | 60年度 | 鶴見厚子「夢の質感」《洋画》 |
| 第6回 | 45年度 | 伊藤 彬「天涯巡礼」《日本画》 | 第21回 | 60年度 | 石渡四郎「硫黄島の再会」《写真》 |
| 第6回 | 45年度 | 大久保利圀「Straw」《工芸》 | 第22回 | 61年度 | 会田富二男「駆けゆく母子像」《彫刻》 |
| 第6回 | 45年度 | 西川万象「廬子諒詩」《書》 | 第22回 | 61年度 | 浜本岬舟「良寛詩」《書》 |
| 第6回 | 45年度 | 加賀谷武男 | 第23回 | 62年度 | 高橋洋子「WAVE (BLUE FENCE)」《立体造形》 |
| | | 「にっぽんNONSENSE ZONE」《写真》 | 第23回 | 62年度 | 森山可余「俳句(原石鼎)」《書》 |
| 第7回 | 46年度 | 中西新太郎「落日」《洋画》 | 第24回 | 63年度 | 三枝孝司「複製された場所」《版画》 |
| 第7回 | 46年度 | 島津碧嵩「寒山詩」《書》 | 第24回 | 63年度 | 菅間ゆみい「夢印象」《工芸》 |
| 第7回 | 46年度 | 大谷正夫 | | | |
| | | 「師ミス・ザンダー(フェリス女学院)」《写真》 | | | |
| 第8回 | 47年度 | 佐々木英夫「人間の風景1・2」《版画》 | | | |
| 第8回 | 47年度 | 林 良達「騎士」《工芸》 | | | |
| 第9回 | 48年度 | 河原 明「蜻蛉」《彫刻》 | | | |
| 第9回 | 48年度 | 石川充宏「Girl in chair」《工芸》 | | | |
| 第10回 | 49年度 | 大山 鎮「語り」《日本画》 | | | |
| 第11回 | 50年度 | 鎌田恵子「Lost my way」《工芸》 | | | |
| 第12回 | 51年度 | 泉谷淑夫「愁傷のモニュメント」《洋画》 | | | |
| 第13回 | 52年度 | 井上 麦「黒の女-'77」《彫刻》 | | | |
| 第14回 | 53年度 | 坂田一之「MIRROR」《立体造形》 | | | |
| 第15回 | 54年度 | 前本利彦「暗い部屋I・II」《日本画》 | | | |
| 第15回 | 54年度 | 川口流坡「菅原道真詩」《書》 | | | |
| 第16回 | 55年度 | 和久井Who「HANGING」《立体造形》 | | | |
| 第16回 | 55年度 | 市原欣一「ふるさと」《写真》 | | | |
| 第17回 | 56年度 | 坂井彰夫「SEISHO」《彫刻》 | | | |
| 第17回 | 56年度 | 高木参平「BODY」《工芸》 | | | |
| 第18回 | 57年度 | 小原正彦「冬の木」《洋画》 | | | |
| 第18回 | 57年度 | 井上隆敏「イグナドバ選手」《写真》 | | | |
| 第19回 | 58年度 | 井上 麦「土の系譜」《彫刻》 | | | |
| 第19回 | 58年度 | 茶木静谷「竹豊松影」《書》 | | | |

第24回神奈川県美術展関係者名簿

■ 顧問

小 倉 遊 亀
中 島 清 之
斎 藤 義 重
圓 鋸 勝 三
高 田 博 厚
蓮 田 脩 吾 郎
殿 村 藍 田
比 田 井 南 谷
(順不同)

■ 委員会委員

委員長
上 野 豊

副委員長
李 家 正 基

神 戸 由 雄
菅 原 寿 雄
匠 秀 夫
土 屋 利 保
吉 田 耕 三
柳 生 不 二 雄
弦 田 平 八 郎
加 藤 東 一
國 領 經 郎
斎 藤 壽 一
井 上 信 道
斎 藤 義 重
永 井 鐵 太 郎
殿 村 藍 田
奥 村 泰 宏
中 原 佑 介
(順不同)

■ 大賞・準大賞選考委員

〈日本画・洋画・版画・彫刻・立体造形〉
近 藤 弘 明
弦 田 平 八 郎
國 領 經 郎
中 原 佑 介
斎 藤 壽 一
酒 井 忠 康
井 上 信 道
柳 生 不 二 雄
斎 藤 義 重
針 生 一 郎
(順不同)

〈工芸・書・写真〉
永 井 鐵 太 郎
吉 田 耕 三
菅 原 寿 雄
殿 村 藍 田
奥 村 泰 宏
江 島 隆
(順不同)

■ 審査員

〈日本画〉

片岡球子
加藤東一
近藤弘明
弦田平八郎

〈洋画〉

入江 観
國領經郎
土井俊泰
中原佑介
中村英樹
宮崎 進

〈版画〉

木村一生
斎藤寿一
酒井忠康
青柳 裕
西田知子

〈彫刻〉

井上信道
小野沢健一
垣内治雄
柳生不二雄

〈立体造形〉

斎藤義重
中井恒夫
針生一郎
和田守弘

〈工芸〉

国行道子
神山尚子
小林 貢
永井鐵太郎
安田律子
吉田耕三
綿貫 清

〈書〉

伊東撫剣
伊奈翠陽
岩沢蕙堂
菅原寿雄
仙場右羊
溪口幽城
殿村藍田
丹羽蒼処

〈写真〉

江島 隆
江成常夫
奥村泰宏
土田ヒロミ
常盤刀洋子

(順不同)

■ 実行委員

〈日本画〉

浅見信夫
◎大山 鎮
能島和明

〈洋画〉

遠藤原三
◎白鳥三郎
鈴木雪子
松野俊雄
吉崎道治

〈版画〉

天野純治
◎岡本よし美
鎌谷伸一

〈彫刻〉

井上 麦
河原 明
丹羽武雄

◎松本繁来

〈立体造形〉

◎鈴木豊男子
田中恭子
羽生 真

〈工芸〉

飯野啓三
市原富士子
市村富美夫
江成房子
小山岑一
柴崎信太郎
◎南雲 陽
松本祐昌

〈書〉

島津碧崑
高木幸子
◎竹田悦堂
茶木静谷
船本芳雲
吉田蘭處

〈写真〉

阿部タモツ
篠崎明弘
◎鈴木健夫
高橋 勤
中島倍三
三井文一
吉田健吉郎

(順不同)

◎は実行委員長

ごあんない

世界の名画と出逢える そごう美術館。

そごう美術館は、国内はもとより世界中から名作、名画が集まる本格的な美術館です。旅先で出逢った景色の美しさに感銘を覚えるように、優れた芸術との出逢いもまた、人々に大きな感動を与えてくれます。エキゾチックな歴史と物語が現代に調和する街、横浜にある身近な美術館。そごう美術館へあなたもいちど、お越しください。

'88秋の主な展覧会予定

■そごう美術館 開館3周年記念 **ルネ・ラリックガラス展**
10月5日(水)→10月16日(日)

■麻布美術館所蔵 **肉筆浮世絵名品展**
10月20日(水)→11月13日(日)

■ブラック展

11月16日(水)→12月11日(日)

■再興 第73回 院展

12月14日(水)→12月29日(水)

※会期については都合により、変更のある場合もございます。

期間中、何回でもご利用いただける便利なパスポート発売中。

●1年間有効パスポート……5,000円

●6か月間有効パスポート……3,000円



〈そごう美術館のシンボル〉

「勝利のヴィーナス」
1914 ルノアール

横浜駅東口・横浜そごう6階

開館時間AM10:00～PM7:00

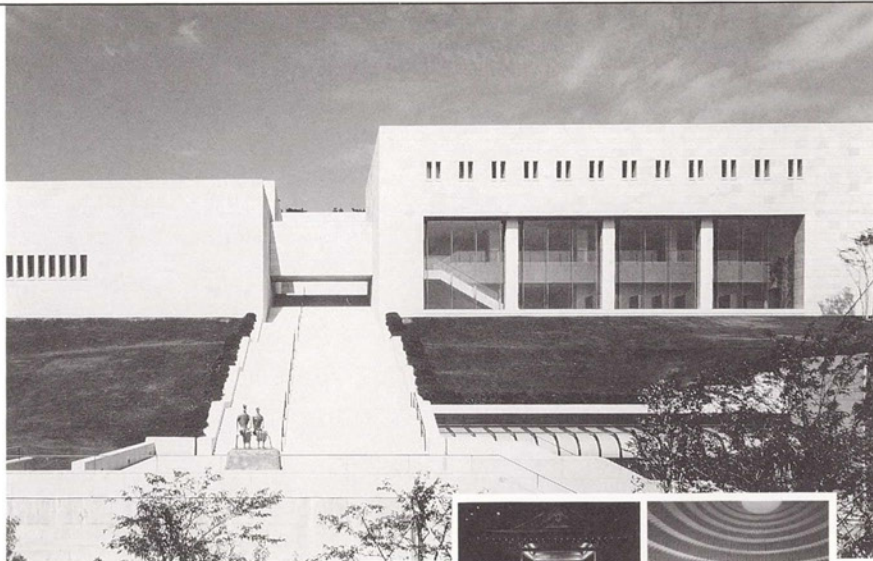
入場は閉館の30分前まで

休館日・火曜日

そごう美術館

〒220 横浜市西区高島2-18-1
TEL.045(465)2111〈大代表〉

SOGO MUSEUM OF ART



開 館=9:30AM~4:00PM(入館は3:30PMまで)

休 館=毎週木曜日(祝日は開館)

〒413 静岡県熱海市桃山町26-2

T E L (0557) 84-2511

熱海駅よりバス④番線

MOA MUSEUM OF ART

MOA美術館



開 館=9:30AM~4:00PM(入館は3:30PMまで)

休 館=毎週木曜日(祝日は開館)

〒250-04 神奈川県箱根町強羅1300

T E L (0460) 2-2623

ケーブルカー公園上駅前

箱根美術館

Theダイヤモンド

キミの笑顔に会いにきました。



西口アツプタウン。

The DIAMOND
YOKOHAMA



MADE IN YOKOHAMA

横浜がエネルギーです。

PORTA

■営業時間 A.M.10:00~P.M.8:30
(飲食店/A.M.11:00~P.M.10:00)



FAUCHON

フランスを鑑賞 フォション「アップルティ」

フォションはパリ・マドレーヌ広場で味を誇る
高級食料品店。紅茶・コーヒー・スパイス・パン・
ケーキ・瓶詰・缶詰…そのひとつひとつにフランス
の味の文化が集約されています。

特に紅茶では香りの高いアップルティが人気！
タカシマヤだけでもおとめいただけます

●フォション・アップルティ〈地1階〉

 **Takashimaya** YOKOHAMA

横浜駅西口/TEL.(045)311-1251



きょうが大きくなるカードです。

お支払いはプランに
合わせて3つのコース

①1回払い

5%優待割引の特典

②リボルビング払い

月々5千円、1万円、2万円
と3種類のご指定のコース
による分割払い

③ボーナス一括払い

3%優待割引の特典

お申し込み・お問合せは
クレジットカウンターまで

●川崎店=5階

●横須賀店=4階

●藤沢さいか屋=5階

●クレジット本部

TEL044-244-4360



さいか屋

川崎店 044(211)3111

横須賀店 0468(23)1234

藤沢さいか屋 0466(27)1111

町田ジョルナ 0427(23)2531



好きなもの 選ぶたのしさを贈ります

横浜松坂屋の商品券

■本館1階商品券売場

※全国の松坂屋(上野・銀座・市川・静岡・岡崎・名古屋・名古屋駅・高槻・くずは・大阪・山形松坂屋)

※全国の大丸・大和各店

※マイストアマツザカヤ・磯子ロンシャン・イリクスター各店でショッピングをおたのしみいただけます

横浜
松坂屋
イセザキ・モール 電話 261-2121 水曜定休

Kodak PRINT

新・発・売 ウルトラダイレクト プリント デュラフレックス プリント

超えた、極めた、プリント新技術。

Kodak PRINT———その卓越した技術力が生んだ新しいペーパーがイマ、誕生しました。

●クリア&シャープな画像と色彩のあでやかさ、豊かな色調の再現を可能にした
ウルトラダイレクト プリント。(ポジからのカラープリント)

あなたのカラープリントが
ポジからでも、ネガからでも最高の一枚に仕上がります。

●美しい表面光沢と優れた耐久性、長期間の保存を可能にする耐変退色性を実現した
デュラフレックス プリント。(ネガからのカラープリント)



コダック・イマジカ株式会社
〒141 東京都品川区西五反田1-18-9 五反田NTビル9F ☎03-779-6195

プロのために、プロの品揃えです。



 有隣堂

画材／日本画材料／デザイン製図用品／書道用品

●文具館〔3・4F〕ヨコハマ馬車道…Tel. (045) 662-1231

●横浜駅東口ルミネ店 ルミネ5F…Tel. (045) 453-0811

●藤沢店〔5F〕南口名店ビル……………Tel. (0466) 26-1411

●厚木店〔3F〕小田急線本厚木駅前…Tel. (0462) 23-4111

※書道・日本画用品のみ取扱っております。

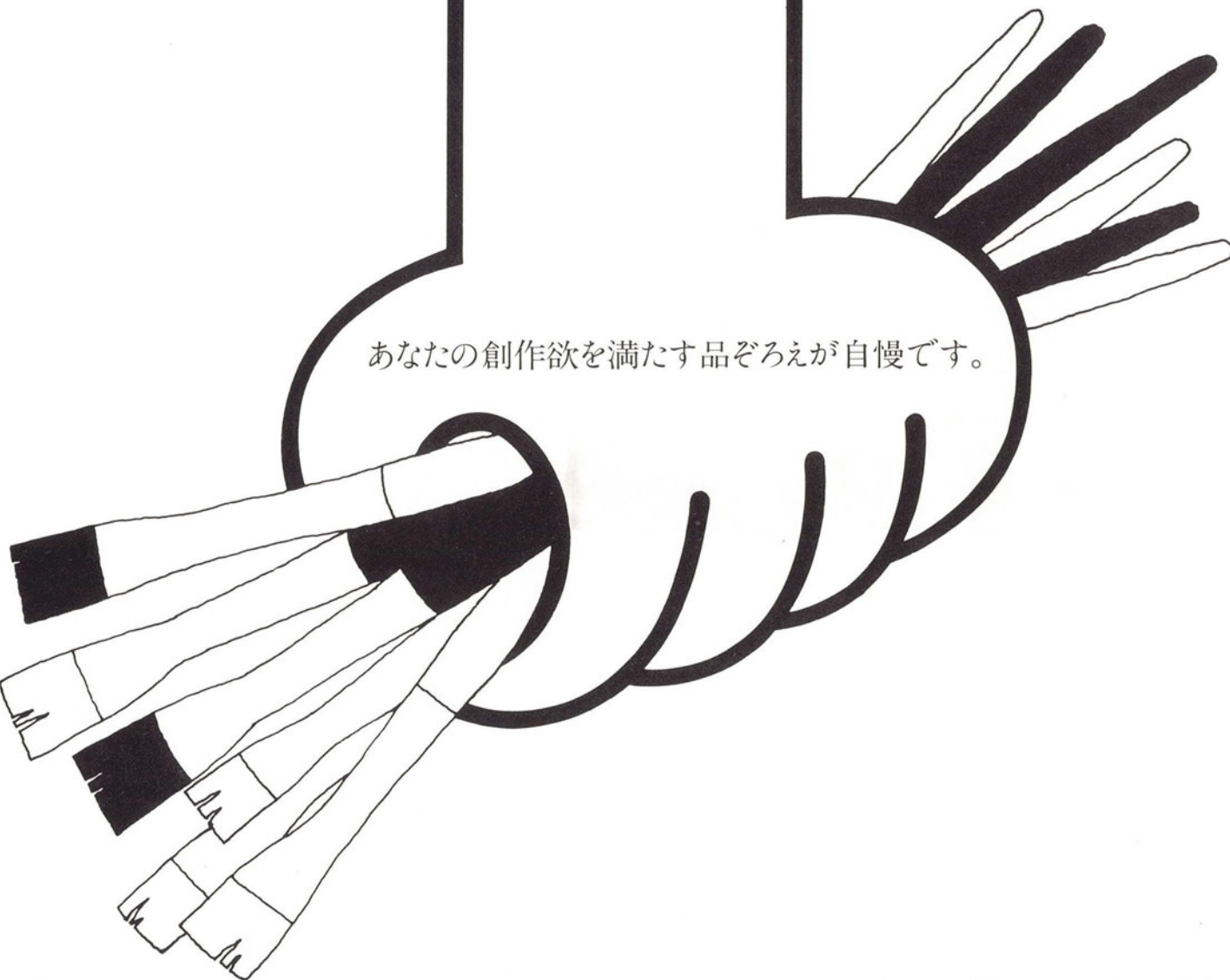
有隣堂ギャラリー

横浜馬車道・有隣堂文具館7階（年中無休）

UCHUDO

●洋画材料●デザイン用品●額縁

あなたの創作欲を満たす品ぞろえが自慢です。

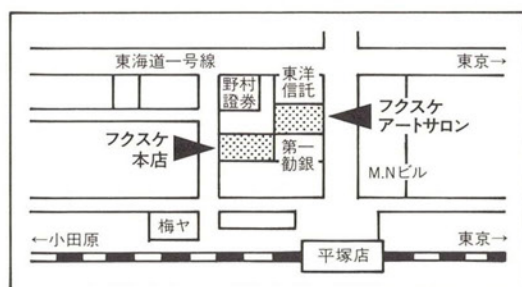


ALL OF ART MATERIAL

宇宙堂

横浜店 横浜ステーションビル・シアル 4 F TEL 045-311-2770

蒲田、仙台、千葉、津田沼、船橋、荻窪、静岡、松戸、他全15店舗



油絵・日本画・掛軸・扁額・工芸美術品・置物・アクセサリ・画材



フクスケ

企 画
貸画廊

本 店：平塚市紅谷町2-9
画 材 部：(ホルベイン画材特約店) 本店3F
アートサロン店：平塚市紅谷町2-18
平 塚 西 店：(平塚ダイクマ店)

☎0463(21)2303

☎0463(21)0250

☎0463(34)6738



Modern and

Contemporary Art



神奈川県美術展受賞作家シリーズ

Sairin Gallery

●常設・企画画廊

●オープン・スペース

壁面延長(A)=27.00 m

// (B)=18.30 m

天井高=2.70 m

面積(床ACフロア)(A)=45.70 m²

// (B)=25.00 m²

1日(A)¥30,000(B)¥20,000(顕賞制有り)

〒231 横浜市中区日本大通60(朝日生命ビル1F) ☎045(651)2524



ART SERVICE INC.

心のこもったお付き合い

頼んでみればわかります。
美術品取扱い専門の会社です。
安心してご利用下さい。

業務品目

- 展覧会 搬入・出代行
- 展示・陳列
- 貸 額 縁
- 画 材 販 売（ロールキャンバス・木枠・額縁等）
- 展覧会 案内状・画集制作
- 地 方 発 送（海外発送含） etc

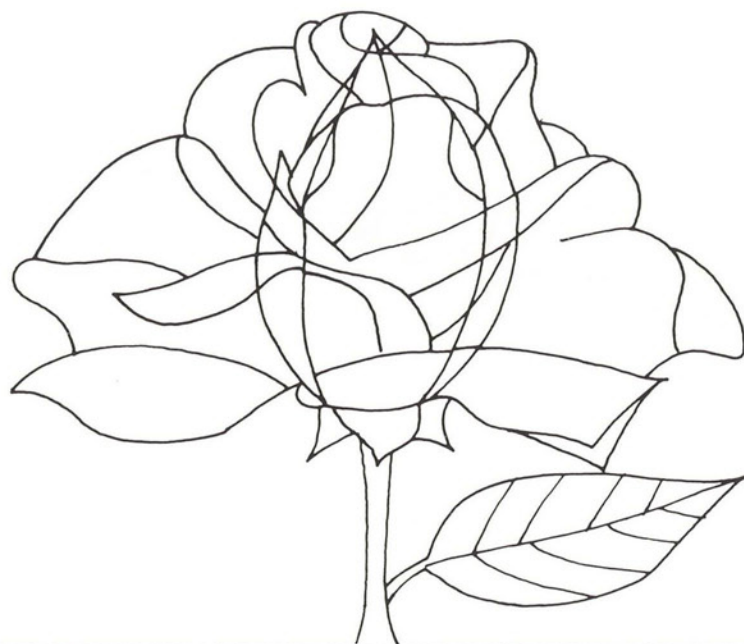
有限会社
アートサービス

電話受付時間

月曜～土曜 AM10:00～PM6:00

日曜・祭日・上記以外の時間は
留守番電話にて承ります。

財団法人 神奈川県美術奨学会



■美術振興基金募集

当法人は、県内の美術振興と新人作家の発掘・育成を目的として昭和45年に設立、以後毎年「神奈川県美術展(神奈川県・神奈川県美術展委員会主催)」に出品された優秀作家に奨学金(美術奨学会費)を給付していますが、基金を増額し、更に意義ある奨学金といたしたく篤志家の御寄付をお願いしております。

皆様方の御協力をお願い申し上げます。

なお、寄付金は、基金に繰り入れさせていただき、この基金の運用金(利子)から奨学金として給付されます。

神奈川県知事指定標準工場

通産大臣賞、中小企業庁長官賞
東京通産局長賞受賞

秀れた印刷物は
文化を語り、心を伝え
そして世界を結ぶ。

カード時代に対応

会社のPR、販売促進、記念品、ご贈答などに、オリジナルのテレホンカードをつくってみませんか。テレカ代理店の当社にお気軽にご相談ください。また、いま話題のプリペイド・カードをはじめ、カード時代に対応して、さまざまなカードづくりをお手伝いします。

コンピュータ文字情報処理加工

コンピュータを駆使した名簿の作成は、アイウエオ順、地域別、年令・年度別、趣味別など…。さまざまなニーズに対応した処理が社内スタッフにより、ソフトから作成可能です。

自費出版

詩集、歌集、小説、画集、絵はがき、楽譜、絵本、随筆集、童話、写真集、自分史、遺稿集、追悼集など文集、社史、寺史など記念誌は、企画・取材・原稿づくりからスタッフがお手伝いいたします。

定期刊行物

社内報、団体・サークルの機関誌、PR誌、コミュニケーション誌など、企画・取材・デザイン・撮影・編集から印刷まで一貫生産いたします

販促・催事印刷

営業案内、カタログ、パンフレット、ポスター、チラシ(折込配布まで)、ダイレクトメール、POPなど、企画・デザイン・撮影から印刷まで高級美術印刷を存分に発揮します。

その他いろいろ

企画から納品まで、一貫したシステムでお引き受けする営業品目。ご要望にお応えして100余名のスタッフが自信をもっておとどけます。

株式会社

 **野毛印刷**

本社 / 横浜市中区相生町5-79 千231 ☎(045)681-0861代
営業本部・工場 / 横浜市中区新川町1-2 千232 ☎(045)252-2511代
東京営業所 / 東京都港区麻布台2-3-12 千106 ☎(03)583-2679代

お問合せ、ご相談はお気軽に

営業企画本部

☎(045)252-2511

●お急ぎの原稿はファクシミリをご利用ください。

営業企画本部 / Fax (045)251-7216

東京営業所 / Fax (03)585-5974

野毛印刷グループ

印刷ショップアトラス

☎(045)641-4132

企画・デザイン

Atlas Creative Boutique

☎(045)201-8263

発行 神奈川県美術展委員会
事務局：神奈川県民部文化室
表紙デザイン 伊東 寿太郎
撮影 コマーシャルフォト オブジェクト
制作 株式会社 野毛印刷社

